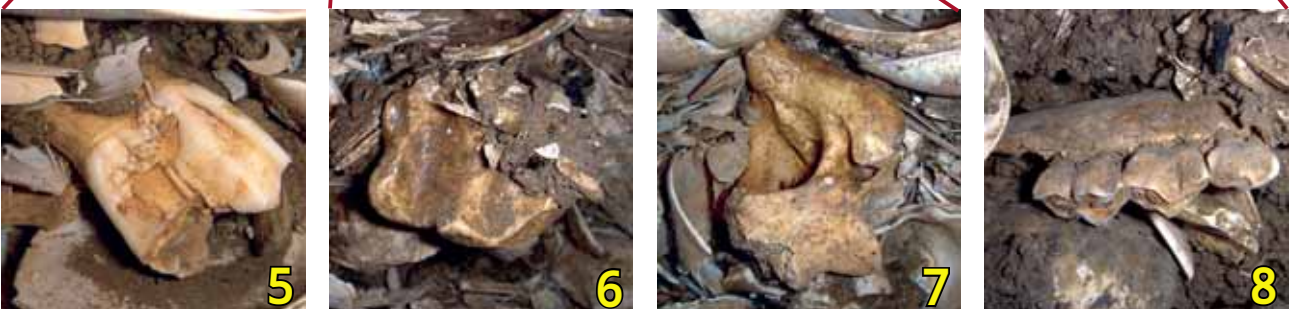
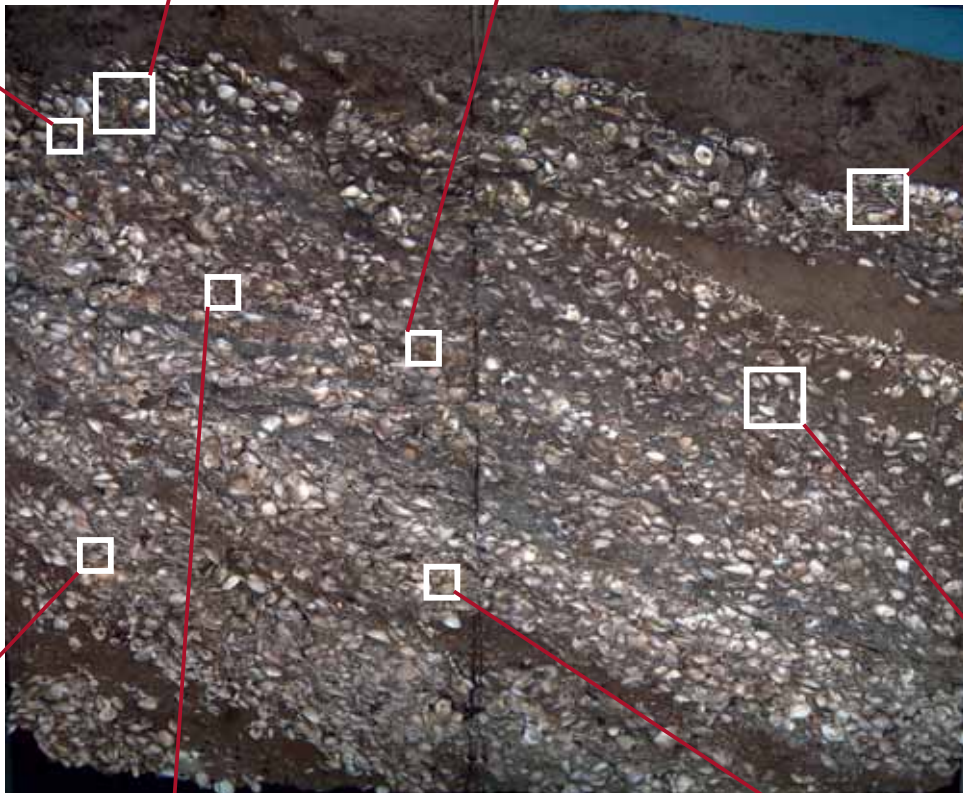


すぎたかいづか ほにゆうるい  
杉田貝塚で見つかった哺乳類



中央の写真は横浜市磯子区にある杉田貝塚の断面です。貝塚の中の骨を探して見ましょう。たくさんの貝殻に混じって、いくつかの骨や歯が見つかるはずですよ。

上の写真の骨は見つかりましたか？

ではなんの骨や歯が想像してみてください。展示室の中には動物の骨や歯が展示されていますので、参考にしてください。

## かいたいにん 解体痕

貝塚から出土する骨には、キズがついていることがあります。このキズは縄文時代の人が動物を解体するときについたキズです。どのような道具でどのように解体したのかを知る手がかりになります。

そのほかにも骨の壊れ方から食べた部分や壊し方を推定することもできます。

## おもての答え

1. ニホンイノシシの<sup>かがくせつし</sup>下顎切歯
2. ニホンイノシシの<sup>けんこうこつ</sup>肩甲骨
3. ニホンジカの<sup>ちゅうしゅこつ</sup>中手骨
4. ニホンジカの<sup>けいこつ</sup>脛骨
5. ニホンジカの<sup>じょうがくきゅうし</sup>上顎臼歯
6. ニホンイノシシの脛骨
7. ニホンイノシシの<sup>じくつじ</sup>軸椎
8. ニホンジカの下顎骨

## 貝塚から哺乳類の骨がある理由

貝塚から動物の骨がたくさん見つかります。貝塚は縄文時代の集落のゴミ捨て場です。ですから貝殻だけでなく、割れた土器や動物の骨なども一緒に捨てられました。でも、それだけが理由ではありません。一般に日本の表土には火山灰が多く含まれているため、酸性を示します。さらに雨が多いので、骨は溶けてしまうことが多いのです。ところが貝塚に埋められた骨の周りには貝殻がたくさんあるので、雨水は上の貝殻層で還元され、骨を溶かしません。そのため、上を覆う堆積物の圧力で変形することはありませんが、小さな骨も割られた骨も埋められたときに近い状態で出土します。

## 動物の種類

イノシシ、シカをはじめとして、タヌキ、キツネ、アナグマ、テン、ネズミ類、クマ、ウサギ、クジラ類などが含まれます。これらは皆食料になったものです。イヌもありますが一部を除いて食物ではなく埋葬されたもののようです。



## 杉田貝塚

杉田貝塚は1949年に発見され、1953年に明治大学によって初めて調査が行われました。その後も数回にわたり小規模な調査が行われてきました。しかし、それまでに詳細な調査報告書はありません。おもての写真にある剥ぎ取りは、宅地造成に伴って2000年に行われた調査の時に作製されたものです。

杉田貝塚は縄文時代後期から晩期の初め頃（およそ4,000～2,500年前）まで、大変長く使用されたと考えられています。そのため貝殻層は厚く、自然遺物、人工遺物ともに良く保存されています。